

巻頭言



秋田県知事 佐竹 敬久

国際交流で秋田を元気に

秋田は、古くから海外との交流の要衝として栄えてきました。時代は遡って8世紀、現在の秋田市に置かれた秋田城は、秋田の対岸に位置する東アジア大陸との交流の拠点であり、日本側の窓口であったと言われています。

21世紀を迎えた現在も、海外との交流は、本県にとって重要な戦略であることに変わりはありません。これまで、第6回ワールドゲームズの開催（2001年）やロシア・プーチン大統領への秋田犬「ゆめ」の贈呈（2012年）などを契機に、海外との交流は盛り上がりを見せてきました。そして、オリンピックが日本国内で開催されるという一大イベントを来年に控え、2019年は、「秋田」を海外に向けて発信し、交流を拡大する好機となっています。

本県では、中国甘粛省やロシア沿海地方との友好協定に見られるように、東アジア地域との交流に重点を置いてきましたが、近年、経済的な関心の高まりと相まって、シンガポールなどへの県産品の輸出拡大や、タイからの誘客や教育交流、ホストタウンによる事前合宿の誘致など、アセアン諸国との交流も展開しています。また、昨年春、秋田港にクルーズターミナルが新設され、クルーズ船の寄港拡大による世界各地からの誘客にも力を入れているところです。

海外との交流は、多様な地域、幅広い分野へと広がりを見せていますが、県内の国際化の状況にも変化が現れています。本県の在住外国人は、これまで永住者がその半数を占めていましたが、年々、技能実習生が増加しており、その出身国も中国から東南アジア諸国へと変わってきています。

在住外国人の国籍や在留目的は、今後も多様化が進むと考えられ、これに加えて海外からの観光客が増加することにより、県内にいながら国際交流に携わる機会が増えることとなります。海外との交流を拡大していく一方で、県内においても災害時の支援体制の構築など、外国人の受入体制を充実させ、多文化共生の地域づくりを実現していくことが、今後の課題であります。

海外との国際交流と、県内での国際交流は、本県の発展に欠かせない国際化のための両輪です。国際交流で求められるのは、多様な文化を理解し、受け入れ、外国人のニーズに応えながら、秋田の魅力や特徴を相手にも伝えていくことです。新年度も、国際交流を積極的に推し進めることにより、秋田の活力と元気につなげてまいります。